

多須神の六宇は本社の分注なるべしと説へる恐くは是なるに似たり其は土佐日記袖中抄などに書れたる文のみならず當國神名帳に從三位上由良姫大明神ありて別に從四位上和太酒明神とあれば由良比女神の分注は加筆なるべし但し當國神名帳に從三位上海原明神從四位上云海彦明神なきは見えたれどこれら海神社の事にあらざるか尙實地に就て考證せまほし

祭日 六月廿日より廿一日迄

社格 村社

所在 別府村(知夫郡黒木村大字別府)

今按神名帳考證信友の書入に視聽合記に知夫郡多澤村より棹し出れば左にもの名は渡島あり長さ六町廿間横三町許其西ノ崎に渡明神と號する社ありと記せりと云ひてこの海神を知多須神ならんとの考證に引けり今國圖を閲するに別府は知夫本郡にある村にして多澤村は知夫の屬島知夫村の内なり明細帳に本社所在を別府村本地と掲載するを按へば此視聽合記の説と恐くは違へる所あるに似たり尙實地に就て考へ計さまほしき事なり

### 比奈麻治比賣命神社

祭神 比奈麻治比賣命

神位 仁明天皇承和五年十月甲午奉授隱岐國無位比奈麻治比賣神從五位下清和天皇貞觀十三年閏八月廿九日壬申授隱

岐國從五位上比奈麻治比賣神正五位下陽成天皇元慶二年五月十七日壬子授隱岐國正五位下比奈麻治比賣命神正五位上位下內藏宿禰賀茂麻呂等言歸郷之日海中夜暗東西掣曳不識所著子時遠有火光尋逐其光忽到島濱訪

之是隱岐國知夫郡其處無有人居或云比奈麻治比賣神

常有靈驗商賈之輩漂洋海上必揚火光賴之得

全者不可勝數神之祐助良可嘉報伏望奉預幣例許

之と見えたるによく符合へり然るに視聽合記に大山神社に係けていへる如く聞ゆれ此は別社ならんと思ふ由は明細帳に別に美田村山上と云所に燒火社但式外と掲載して祭神不詳美田村の内波止の里より十八丁許駆路を上りて山上に在り兩島に比倫なき景地なり此社海上の危難を救ひ給ふ神徳ありとて古より今に至るまで諸人崇敬する社なり就中後鳥羽上皇御遷幸之時海上にて靈験有し

祭日 六月廿八日九月十九日

社格 村社

所在 宇賀村(知夫郡黒木村大字宇賀)

府里高津久へ上り給ひ爰にある事萬治二年までそ七年同

年六月十五日今地に御鎮座と社記に云々地名天神原俗一宮大明神と稱すと記載せり姑く掲げて後案を俟

### ○海部郡 小一座 今稱海上郡

### 奈伎良比賣命神社

祭神 奈伎良比賣命

祭日 六月十一日十月十日月初卯日毎月朔日

社格 村社

所在 豊田村(海士郡海士村大字豊田)

今按視聽合記に周吉郡西郷目貫町根枝の西の山腹に本社ありと見えて按神明帳奈伎良比賣命神社在海部郡然則此神祠可在海部郡今郡中無在也既而有之豈郡名之誤歟後世或遷茲敷抑又別神となり本國神名帳には海部郡從一位奈伎良姫大明神と記載す神名帳考證書入に信友按に周吉郡は島後也海部郡は島前にて島異なり周吉郡なるは海部郡なるを更に祀りたるものにて式なる社にはあるべからず但故ありて遷座あるまきにもあらずなどあるを明細帳には其鎮座年號不相分として本村ミ記載せり姑く帳に隨ひて掲ぐなほ實地をよく探索せまほしき事なり

### 宇受加命神社

名神大

祭神 宇受加命

所在 知夫村(知夫郡知夫村大字知夫)

今按明細帳に用明天皇御時新府里の南海中の島に在り此

を神島と云白雉二年まで年數六十八年也同八月十五日新